

# 横になり安静保つ



柳澤 秀一郎さん

富山大付属病院 眼科診療教授

お医者さんに  
聞いてみよう

28



知人に網膜剥離になった人がいます。原因や異変に気付いた時の対処法、治療法を教えてください。

## 網膜剥離になったらどうする？

網膜は眼球の内側に張り付いている「薄い神経の膜」です。光を感じる部分で、その中心にある黄斑は視力や色覚を担っています。周辺の網膜は暗い所で光を感じたり、視野を担当しています。網膜は眼球の血管から栄養や酸素が供給されており、物を見る機能を維持しています。

このため網膜剥離が起きると、栄養や酸素の供給が途絶え、剥がれた部分に伴ってそれぞれ異常が現れます。黄斑が剥がれるとゆがみや視力低下が、周りの網膜が剥がれると視野欠損が生じます。

県内では毎年100人以上

が発症し、治療を受けています。

多くの場合は網膜に穴が開き(裂孔)、網膜下に眼内の水が流入することで生じます。眼球の中には硝子体というゼリー状の透明な物質があり、加齢により収縮します。その際、網膜の一部をけん引して裂孔が形成されます。

網膜がけん引されると光が走って見え(光視症)、裂孔が形成されると細胞成分が眼内に放出されゴミが飛んで見える「飛蚊症」になり、網膜剥離に至ります。放置すると網膜剥離の範囲が拡大して、視野欠損が広がります。

網膜の裂孔のみで網膜剥離に至っていない場合はレーザー

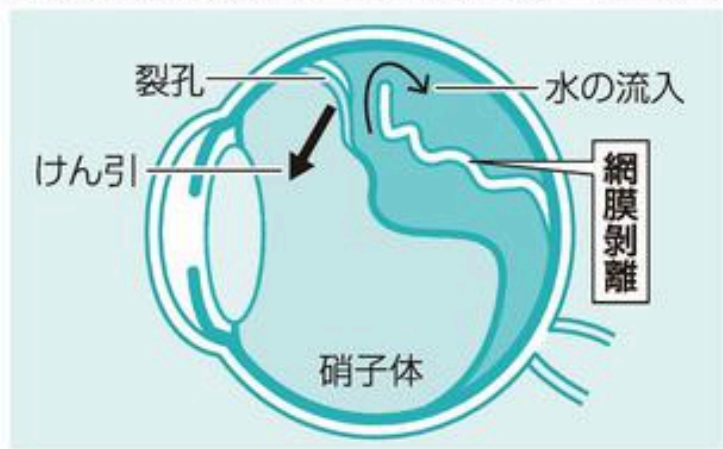
治療で予防できる場合があります。通常の飛蚊症は放置しても支障はありませんが、徐々に濃くなったり、数が増えたり、数が増えるような場合や、光視症の頻度が増えるようであれば注意が必要です。速やかに眼科を受診してください。

視野欠損を自覚している場合は既に網膜剥離が起きている可能性があります。すぐ受診できない場合は横になって安静を保つことで悪化を抑えることができます。どの部分の視野異常が最初に出現したかを覚えていけば、原因となる網膜裂孔の位置の推測に役立ちます。

裂孔の閉鎖と硝子体のけん引解除のため、手術で治療します。若い人ではスポンジを眼球に縫い付ける方法が選択されることが多く、中年では硝子体を除去します。

硝子体手術の場合、裂孔の閉鎖を確実なものとするために眼内にガスを入れて術後は安静を保ちます。網膜がくっつけば視野は回復しますが、術前に黄斑が剥がれていた場合、ゆがみが残ったり、視力回復が十分でなかったりすることもあり、なるべく早く手術を行うことが望まれます。

## 網膜剥離が起きるメカニズム



1 治療で予防できる場合があります。通常の飛蚊症は放置しても支障はありませんが、徐々に濃くなったり、数が増えたり、数が増えるような場合や、光視症の頻度が増えるようであれば注意が必要です。速やかに眼科を受診してください。



第2、4火曜に掲載。これまでの連載はこちらからご覧いただけます